

浪江町東日本大震災から復興への足跡2021（定点観測写真）

その2：浪江町請戸漁港地区の10年

請戸港は浪江町の漁港と云うにとどまらず、福島第一及び第二原発を挟み隣町の双葉・富岡・楡葉・広野など、いわき小名浜に至る浜通り地区各町の中核漁港として栄えてきました。また秋には請戸川や周辺海域での鮭漁で高い漁獲量と観光資源として多くの観光客の賑わいを呈していました。

請戸港は浜通りの中核漁港として、また周辺は農業そして夏には海水浴、秋には鮭漁など観光資源にも恵まれ港市街が賑わい発展してきました

推定15mを超える津波により、港湾施設、船舶や市街家屋のすべてが流出、更には福島第一原発事故による放射能拡散によって、救難活動が困難な悲劇も生まれました。



2014-10月 E地点 北
請戸川・内港方向で、もっとも人口密度の高かった市街中心地区です



2014-10月 E地点 東
請戸外港方向を示す、現在港湾及び防波堤復興工事が進行中です



2014-10月 E地点 南
周辺すべての家屋が流出、近くには請戸小学校が残骸をさらしています



2014-10月 E地点 西
家屋流出によって震災前は見えなかった浪江町市街が遠望できます



2014-11月 E地点 東北
 福島第一原発事故による放射性物質の拡散被害により、復興立入も困難になり
 津波に耐えた当時の残骸惨状が時間が止まったように風化して・・・



2014-11月 E地点 北
 請戸港堤防から約200m 津波に耐えた家屋も
 内部は生活の痕跡を全て流出させ3年余・・・



2015-7月 E地点 北



2014-11月 E地点 北
 流されてきた巨石残骸が、人知を超
 えた津波の規模と脅威を・・・



2015-7月 E地点 東



2014-10月 E地点 東堤防から
 直線距離で約8Km福島第一原発を望める
 その間、震災当時の残骸被害が累々と・・・



2014-11月 E地点 東南

復興と(始まったばかりとも云える)未だ続く行方不明痕跡搜索と瓦礫点在の悲劇



2015-7月 E地点 南



2013-5月 請戸橋から
 漁港より約1km、山側農地には2年後も津波で流
 された漁船が当時のままに点々と・・・



2014-11月 E地点 西



2015-7月 E地点 西



本格的な復旧作業がようやく開始され始めたが、当時の地震そして津波の自然災害、その直後に襲った人災とも云える福島第一原発事故による復興の遅れ、当時の恐怖を語る無言の痕跡が各所に散在していました

2015-10月 E地点 北及び北東
 繁殖していた雑草や津波により流されてきた大量の土砂や瓦礫を取り除き、流出した家屋の土台が確認できるところまで、夏から年末にかけて整地が完了。多くの流出家屋の土台が露出したことで震災(津波)の生々しさをあらためて感じます。

E地点 東方向 請戸外港復興工事中
 復興工事広報ボード



2015-10月 E地点 南

2015-10月
 港湾及び堤防復旧工事が行われています



2015-10月 E地点 西及び右端西北方向



2016-7月
 E地点 東(請戸外港復旧工事)方向にあった津波被害のコンクリート建屋跡が5年余を経て撤去されました

2016-12月 請戸外港復旧工事の風景



2016-10~12月
2016年10月 E地点 西北
流出住宅の土台等撤去による集積と更地化作業風景



震災から5年有余、瓦礫が撤去され、流出家屋に残されたコンクリート土台部が、この期間に全て撤去され更地化されました
これで流出を免れ、廃墟化した損壊家屋以外、かつての市街の面影が消えました。

2016-12月 E地点 北(サケ漁で有名な請戸川および密集市街地であった請戸内港方向)



流出に耐えたが破壊著しく廃墟化

土台撤去の集積

2016-12月 E地点 西(浪江町中心市街地方向で、交差点周辺は住宅地域であった)
ぼつんと残された廃墟とどこから流れてきたか、庭石が、かつての生活の跡を示しています



2016-12月 E地点 東(請戸外港及び堤防復旧工事、太平洋方向)
港及び堤防などの復旧の為に、早くから整地が進んでいた方向です



2016-12月 E地点 南(双葉町に至る道路)
E地点交差点付近の津波流出を免れた住宅外殻、生活者は無事だったろうかと、想いが走ります



津波に耐え流出は免れたが、外観を残すのみで破壊廃墟と化した数棟の家屋以外、流出しコンクリート土台のみとなった廃墟はすべて撤去され、これにより広大な請戸地区旧市街地はすべて更地化されました。跡地は今後防潮堤の再構築、港湾諸施設の復興また再び悲劇を繰り返さないための、再興都市計画が推進されるスペースとなるということです。

廃屋周辺に更地化された広いスペースが空虚感を漂わせています

) 2017-1月 2016年更地化された請戸旧市街地全景（請戸外港及び堤防復旧工事広報ボード前より望んだパノラマ写真）
津波による被害流出物がすべて撤去され、復興への準備が整いつつあるある情景を示す請戸地区全景



2017-3月 E地点 北(請戸内港付近)
残された廃墟建物群の解体が始まりました



2017-9月 E地点 北



請戸旧市街地域の一部を転用した、津波被害の軽減を図る防災林工事が始まりました



2017-3月 E地点 東北(請戸外港)
6年ぶりに請戸港漁船が帰還しています



2017-1月



2017-2月 E地点 北



2017-4月
E地点 請戸外港復旧工事が本格化しています



最も外観をとどめていた津波に耐えた家屋外殻の撤去が終わり、またひとつ震災の記憶が消えました



2017-10月 E地点 北
防災林工事と海岸堤防復旧工事の
開始で旧市街道路通行規制



2017-10月 E地点 東
請戸外港への通行道路を通行止と
して、海岸堤防復旧工事を開始



2018-1月

震災から8年目を迎え E地点から見た請戸地区の現状パノラマ写真



双葉町に至る南西方向には、現在震災瓦礫の一次仮置き場など、復興関連事業が行われているが、将来は双葉町にまたがり津波震災を後世に残す復興祈念公園が建設工事が計画されています(次頁計画)



請戸地区の90%以上が更地化されたが、今も残る廃屋が!!震災当時を思い起こさせます



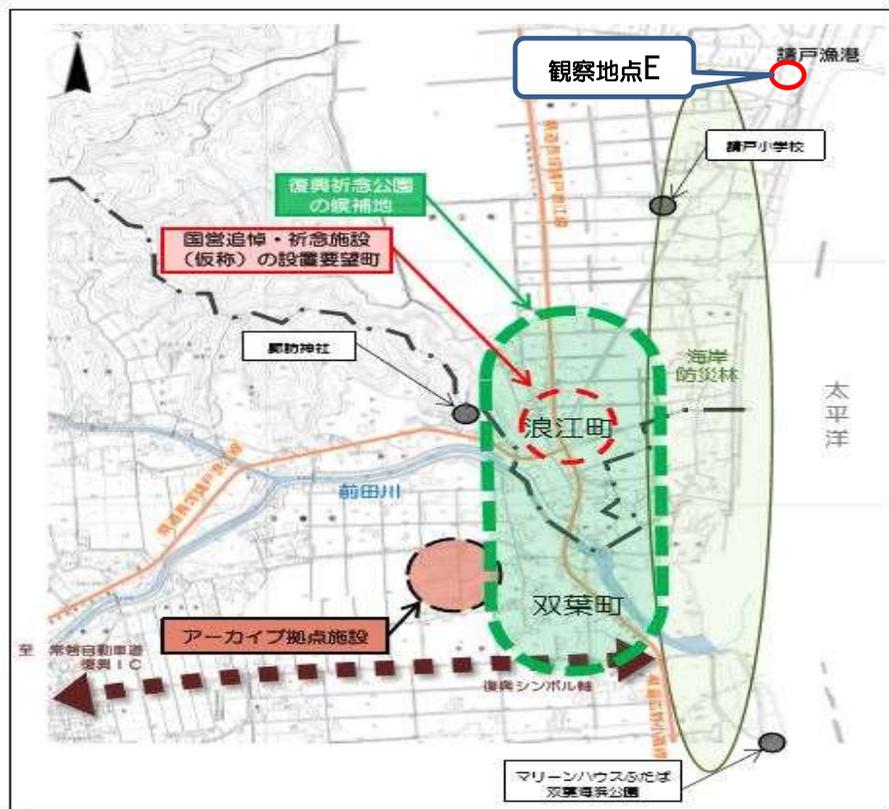
震災前は住宅区域であったが、防災林に生まれ変わる復旧を待つ広大な更地が広がります



太平洋に面した請戸外港と接続する、外洋防波堤の築堤復旧工事及び周辺環境整備事業を、大規模に展開しています



国営復興祈念公園計画図



公園計画地の震災前請戸～双葉町海浜写真（グーグルマップより転載）

震災前の祈念公園計画地周辺の現地も、人家・農地が多くあったことが分かります



2018-12月

2018年は市街地住宅跡の瓦礫も完全に撤去され、市街地で有った後に防災林や港湾施設計画地や防潮堤などの整備が進んできました。いまだ、主を失った廃墟が幾つか残されていますが、現地はほぼ復興を待つ準備が整い、また防潮堤や請戸港の整備が進んでいます。



2019-4月 E地点 西方向
津波被害を受け、建屋外殻だけが残っていた木造廃屋が震災から8年、ようやく撤去され、跡地が整地されました



2019-6月
津波被害により、生活をすべて流されたコンクリー外殻を残すのみの住宅廃屋が撤去され、跡地に港湾に通じる道路及び用水路整備工事が開始された。

道路・用水路工事



2019-6月 地点E 北及び北西
震災から8年を経過するも、いまだ取り残されている津波被害廃屋や港湾施設が数棟あり、記憶を生々しく呼び覚ますシンボルになりつつ、今も崩壊が進む廃墟となっています



これらの港湾施設は2019-11月

2020-1月

2019年は津波により流出した市街地民家・港湾施設などの残骸の取り除きが行われてきましたが、同時に津波被害に遭われた被災者捜索を進めながらという、非常に痛ましい、と同時に作業に丁寧さと緻密さを求められる困難な捜索作業を伴う、難しい作業となりました。その結果作業期間は長期に渡ることになりましたが、請戸港市街地の再生を図る土台が整いました



流出家屋、施設の土台や設備残渣などが取り除かれ、防災および施設の復興などの取り組み準備工程が1年をかけて整い始めました

2020-2/25 河北新報

浪江町請戸の水産卸・加工業「柴栄（しばえい）水産」の水産加工処理流通施設が完成し、内覧会が二十二日、現地で開かれました。

四月に操業を開始する予定で、地元では震災後初の加工施設再開です



E地点から300m先に望む施設全景

2020-3月 請戸川・請戸内港方向

最後まで残り、当時の津波被害の様子を表していた建物外殻が、原子力災害による立ち入りを拒まれ、9年という長い年月を経て撤去されました。これにより請戸地区の市街地更地化がようやく完了し、復興事業が本格化することになります



2020-4月

震災から9年、母港を失った漁船に新生請戸港が戻ってきました。その様子は、次頁の震災前後の写真で確認できます。

震災前には請戸川に面した内港とその後新設された外海に面した外港とに分かれていましたが、復興なった漁港は外港側に集約されました。（その変化の様子は次頁震災前後の比較写真でわかります）



請戸漁港震災前後の変化

2011-3月の東日本大震災による大津波による被害により全市街地が流出し、大きな人災を生んだ請戸港を核とした地区も、震災から9年を経て請戸港が復興、再建への本格的な歩みが始まっています

震災前には多くの港湾施設とここを生活の拠点としていた多くの町民が生活を営んでいたことが下の写真で判ります、復興に当たっては浪江町の復興計画に沿い、新たなライフスタイルを確立するべくこれら町民の生活と労働の拠点都市計画及び災害防止の復興工事が本格化します



2021-3月

東日本大震災から10年を経た春の請戸地区市街地における、復興途上の観測地点Eからの景色になります。かつては多くの漁港関連産業施設やこれに従事した典型的とも云える地方漁港市街地が軒を連ねていた景色が、震災による大津波によってすべてを失ってから10年を経過しました。その直後の福島第一原発事故により救助活動もできないまま全町民避難の悲劇が、浪江町の復興を著しく遅延させてきました。

しかしこの苦難を乗り越えて今、ようやく復興への足掛かりとなる災害復旧への基礎整備が進み、本格的な復興事業が始まりつつあります。前年からの新型コロナウイルス感染症に起因する病気が全世界的に伝播する中で、東京オリンピックが開催されるなど国全体が苦難の中にありますが、再び次の世代に繋がる未来志向の市街が復興するものと期待されます。

